

高砂神社 概要

高砂神社は、高砂の神である大己貴命（おおなむちのみこと）を祀っています。この神社は、ユネスコ無形文化遺産である日本の伝統芸能である能の役者、劇作家、作曲家である世阿弥元清（1363～1443）の能『高砂』の元の舞台であると考えられています。

境内には神聖な松の木があります。2本の幹が根元で合流することから、劇中では「相生の松」と呼ばれています。これら幹の霊は、尉と姥という名前の伝説的な老夫婦であると言われています。劇中では、彼らは夫婦の幸福と長寿の象徴です。

尉と姥の伝説や松の存在が広まると、高砂は夫婦和合に関する伝説が数多く残ることから「結びの町」として知られるようになりました。尉と姥のイメージは伝統的な結婚式で使用されます。新郎新婦の席は「高砂」と呼ばれています。劇中の古典的な唄「謡曲高砂」は長く幸せな結婚をテーマとすることから、結婚式の曲として全国的に有名です。

境内の中央に本殿、幣殿、拝殿があり、本殿の南東側に能舞台があります。境内を約 3,000 灯のキャンドルで埋め尽くす灯籠祭りや秋祭りなどの年中行事や観月能が開催されます。